

平成 28 年 12 月号

平成 28 年 12 月 3 日発行 No.166
 編集・発行 事務局・広報部
<http://suitashi-danshukai.net>

<平成 28 年 12 月 1 日入会>

☆ N・Yさん 吹田 支部

新しい仲間です。よろしくお願ひします。



「すいただより」の来年 1 月号に皆さんの一言を掲載します。新しい年を迎えるにあたっての決意、抱負、夢や希望・俳句・短歌何でも結構です。別途原稿用紙を配布致します。各支部支部長まで。

締切：南千里支部 12 月 22 日(木)

吹田支部 12 月 24 日(土)

吹田市断酒会のこの一年：一年間の活動お疲れ様でした。

(敬称略)

月	主な行事			断酒表彰		月	主な行事			断酒表彰	
	日	行事名	期間	氏名	日		行事名	期間	氏名		
1月	2(土)	三社参り	1年	M・T	7月	24(日)	学習交流会	4年	Y・R		
	23(土)	社会福祉協議会福祉大会	12年	S・S							
	24(日)	学習交流会									
2月	14(日)	大阪府断酒会アメンストの集い	2年	T・N	8月	7(日)	北摂断酒連合会一日研修会	34年	H・S		
	17(水)	ハートふれあい祭りプレ講座	4年	I・S							
	28(日)	府断地域断酒会役員一日勉強会	31年	A・T							
3月	6(日)	北摂断酒連合会役員一日勉強会	1年	Y・H	9月	4(日)	大阪府断酒会 50周年記念大会 リカバリーパレードin関西	17年	H・K		
	12(土)	ハートふれあい祭り	3年	O・H							
	20(日)	きづな会創立46周年記念大会									
4月	24(日)	近畿ブロック(滋賀)大会	3年	A・D	10月	10(月)	第3回断酒を考える会	8年	O・H		
	29(金)	第3回北摂断酒連合会家族会 一日研修会	12年	T・H							
			18年	T・T							
5月	7(土)	第30回定時総会	7年	N・T	11月	3(木)	北摂断酒連合会断酒宣言の日 キャンペーン	3年	S・H		
	19(木)	一般社団法人大阪府断酒会定時社員総会	11年	N・K							
			16年	M・N							
6月	19(日)	きづな会一日研修会	1年	I・A	12月	4(日)	第53回全国(香川)大会				
			4年	Y・S							

今月の「指針と規範】断酒新生指針は、裏面です。

今月の「指針と規範」】

断酒新生指針 一

酒に対して無力であり、自分ひとりの力だけではどうにもならなかったことを認める

酒害者の酒に対する執着は凄じい。悩み苦しんでいる家族よりも酒の方を選び、ときには、コップ一杯の酒に自分の人生を賭けてもよい、と考えることすらある。

内臓疾患、職場での重大なミス、離婚問題等が動機になって節酒に挑戦し、何回となく失敗してもなお、酒に対して無力であるという現実を認めることができない。

節酒ができないことを認めて、ときには断酒に挑戦する人もあるが、ほんの数日でまた飲み始める。そして、例えわずかの日数でも酒を断つことができたのだから、今度こそ節酒ができるはずだ、と考えている。

何度同じことをくり返しても、自分が酒に対して意思が働かない人間であり、アルコール依存症になっているとは認めない。酒に対する無力の承認は、もう二度と酒を飲めないことを意味する。そしてそれは、生甲斐のすべてを酒害者から奪いとることである。

また、アルコール依存症ほど理解されていない病気も珍しい。低人格、意志薄弱人間がなると考えている人が多く回復が可能だと考えている人は極めて少ない。この病気に対する偏見、誤解は社会に充ち溢れている。そして、酒害者自身が世間と同じ偏見を持っていることが、問題の解決を難しくしている。自分をアルコール依存症だと認めることは、己の全人格を否定することにもなりかねないのである。

しかし、事実は事実として素直に受け入れよう。酒に対して無力であることは、決して恥ずかしいことではない。アルコール依存症は元来、酒を絶対にコントロールできない病気であり、人格が原因で発病するものではない。自分がアルコール依存症になっており、酒に対して無力であるという事実を認めないことが恥ずかしいことであり、断酒を決意し、この病気から回復しようとする努力は誇れるものである。

自分自身の偏見は捨てよう。病気の進行とともに人格の荒廃が進むことがあるが、それはこの病気特有の症状であり、断酒することによって徐々に回復する。

われわれ酒害者の人間としての本質価値は、一般の人たちと何ら変わるところがない。また、断酒が継続される過程で様々な問題意識が生まれ、それらを解決していくうちに、信じられないような新しい人生が拓けるのである。

酒に対して無力であることを認めたとき、断酒への努力が始まる。しかし、自分ひとりの力だけで断酒しようとする人たちは、必ずといってよいほど失敗する。自分ひとりだけの弱さを認められない人の自信は過信でしかなく、「孤独な病気」と呼ばれているアルコール依存症を、十分に理解していないことにある。

(指針と規範 P1~P3)

「アルコール関連映画紹介」

ガール・オン・ザ・トレイン(米)

「人は人を殺したことを忘れられるのか？」

原作は、NY タイムズベストセラーにて 21 週 No. 1&77 週ランクインなど、45 カ国で空前のベストセラーとなったポーラ・ホーキンスによるミステリー小説『The Girl On The Train』。

夫と離婚したレイチェルは、裏切られて離婚したショックから、アルコール依存症と半分うつに近い状態に陥っており荒んだ生活をして

いる。さらに、泥酔すると酩酊時の記憶が飛んでしまう「ブラックアウト」に陥りやすい体質です。

電車内では水筒にお酒を入れて持ち歩き、行動する時は顔色も悪くいつもフラフラ。

ルームメイトには会社をクビになったことを言えず、毎日ロンドンへ電車で通勤のふり。行き帰りの車窓から見える以前の自宅を眺めるのが日課となっている。毎朝電車の窓から見える、見ず知らずの夫婦の姿に、別れた夫との幸せだった日々を重ねていた。

ところがある朝、電車の窓からレイチェルが見たのは「理想の夫婦」の妻の不倫現場だった。そして、その女性は間もなく死体となって発見され、レイチェルに疑惑の目が向けられてしまう。

本作はそんなアルコールに溺れて人生をどん底にした女性が、さらなる追い打ちを喰らいながらも自分を見つめ直すお話しです。

ただ、本作はハートフルなドラマではなく基本はミステリー。ある夜、泥酔して次の日の朝に目覚めた主人公はなぜか血だらけ。一体あの晩に何が起こったのかも思い出せないなか、真相に迫っていきます。

11月18日から上演中

TOHO シネマズ梅田 18:45 / 21:30 ~ 終 23:35

TOHO シネマズなんば本館・別館 13:00 / 15:30 ~ 終 17:35

